

## 6. エネルギー需給の変化に係る調査

東日本大震災以降の節電等により都市においてエネルギー需給変化が見られ、この変化はヒートアイランド減少の主要な原因の一つである排熱量の変化に直結すると考えられる。このため、主に夏季を対象として、震災後の節電の状況や省エネ設備等が排熱変化に及ぼす影響等の情報を整理し取りまとめた。

### 6.1 震災後のエネルギー需給変化に伴う人工排熱変化の把握

関東地域（東京）と関西地域（大阪）において、平成 25 年度までに、震災前後のエネルギー使用状況等を把握し人工排熱への影響の試算を行った結果を、最新のデータで更新した。

結果は、東京 23 区、大阪府ともに、震災前にくらべて 2014 年 8 月は業務ビル、住宅、工場、鉄道のいずれも震災前より排熱量が減っており、火力発電所からの排熱は稼働率や稼働数が増えたことにより大きくなっていった。火力発電による増加分を含めた全体としても、東京 23 区、大阪府ともに 100TJ/day 以上の排熱量が削減されていると推定された。

ただし、電力使用制限の有無や急激な節電等が難しい工場用途の割合の違いなどから、東京 23 区では 2011 年に大きく減少し、その後若干のリバウンドが見られ、大阪府では震災以降、徐々に排熱削減率が大きくなっていった。

詳細は、巻末に参考資料 5 として添付した。

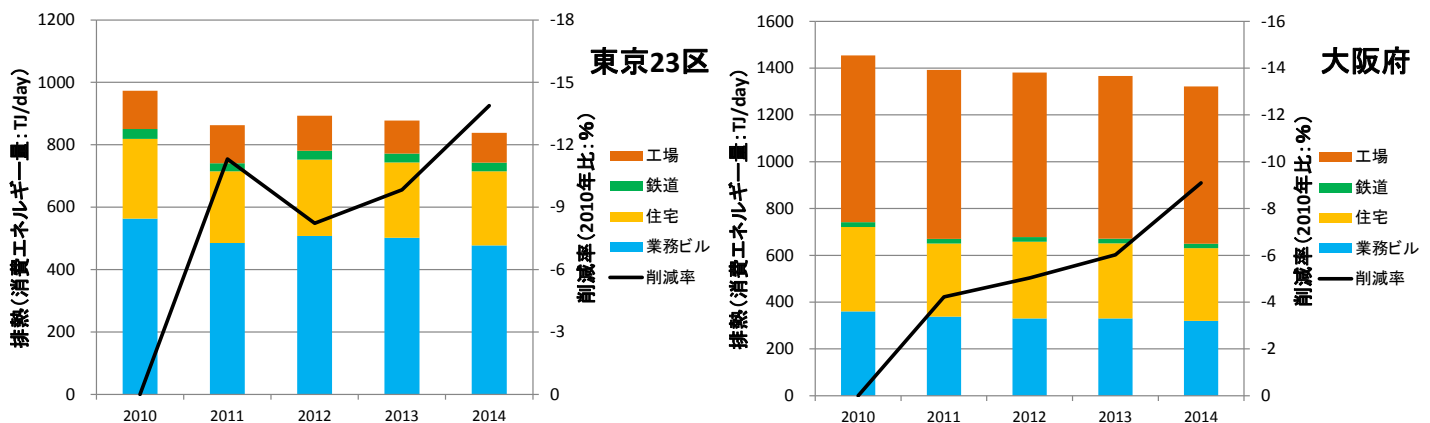


図 6.1 東京 23 区と大阪府における排熱量（エネルギー消費量）の推移